

未来を創るリーダーシップ研修 基礎コース

in

TALARIS CONFERENCE CENTER

Seattle, WA U.S.A.

旅行日程：2012年9月1日（土）～ 8日（土） 8日間

研修日程：2012年9月2日（日）～ 5日（水） 4日間



主催：シンクタンク藤原事務所

〒250-0011

神奈川県小田原市栄町 2-13-12

ASUKA ビル 2F

TEL.0465-44-4750 FAX.0465-44-4751

<http://www.fujiwaraoffice.co.jp/>

共催：株式会社プロス

株式会社ヤマオコーポレーション

未来を創るリーダーシップ研修 基礎コースのご案内

みなさん、こんにちは。このたびは「未来を創るリーダーシップ研修 基礎コース」に資料請求をいただきまして、誠にありがとうございました。1999年の春に米国ワシントン DC で開催されました米国経営品質賞発表会に参加して、そこで米国企業が考えるリーダーシップというものに対する思いの深さに感激し、米国西海岸ワシントン州にありますシアトルのワシントン大学で、同年の夏に「リーダーシップと経営に生かす会計」というテーマでベティン教授による最初の研修を開催いたしました。

流暢な通訳を用意して、教材もできるだけ日本語化したことで、ベティン教授と本当に本音でみなさん議論を重ねることができ、それは言葉で言い表せないほどの感動をもたらしたと言って良いと思います。本当に素晴らしい人格、識見を持つ米国人と、本音で議論をするということそのものが、参加者全員にとって、大変な喜びであったようです。本当にすごい米国人というのは大変寛大で、どんな質問に対しても優しく丁寧に答えてくれるものです。こういう人たちのお付き合いが続くということぐらい、心強いことはありません。

あれから今年ですでに13年経ちましたが、この間、多くの方が実践を積み重ねられています。

「これで何か人生が変わる気がする」

それは決して誇張ではなくて、参加者のみなさんが率直にお感じになっていることです。

今回の研修ではベティン教授に4日間、リーダーシップを徹底的に教えていただきます。この4日間で、思っていること、考えていることのすべてを質問で教授にぶつけることができますと思います。また研修の合間や研修後、そして日本への帰国後には、参加者同士で議論をしたり親交を深めたりする機会もございます。それもこの研修が持つ大きな魅力の一つではないかと思えます。

今回わたしはご一緒できませんが、会社のためにも日本のためにも、そしてみなさまおひとりおひとりの人生のためにも、新しいご縁の中で勉強を始められますことを強くお勧めいたします。これからの時代、小手先だけの勉強だけでは立ち行きできません。組織というものを一から学び、ヨコ型リーダーシップで時代を乗り切りましょう。何かご質問がありましたら、どんどんお寄せいただきたいと思います。



シンクタンク藤原事務所
取締役会長 藤原直哉

未来を創るリーダーシップ研修 基礎コース 日程予定表

月日(曜日)	行動予定	
9月1日(土)	13:00 16:10 09:15	集合 新東京国際空港(成田空港) 出国 デルタ航空 DL156 便にてシアトルへ 入国 通関後シアトル市内および近郊見学 午後 ホテルへチェックイン 休憩 夕食 ベティン教授も参加してのキックオフディナー シアトル泊
9月2日(日) ~ 9月4日(火)	シアトル滞在	朝食 各自 Talaris Conference Center へ(送迎バスにて) 8:30~17:00 Leadership 研修(適宜コーヒー・ブレイク) 昼食 Talaris Conference Center 内にて 夕食 研修終了後、ホテルへ送迎バスで移動、各自夕食 夜 ホテルのスイートルームにて、希望者は予習・復習の会 シアトル泊
9月5日(水)	シアトル滞在	朝食 各自 Talaris Conference Center へ(送迎バスにて) 8:30~17:00 Leadership 研修(適宜コーヒー・ブレイク) 昼食 Talaris Conference Center 内にて 夕食 卒業ディナー 夜 ホテルのスイートルームにて、希望者は予習・復習の会 シアトル泊
9月6日(木)	シアトル滞在	終日自由行動(オプションツアーも承ります) 夕食 希望者のみ打ち上げ食事会 シアトル泊
9月7日(金)	11:00 14:10	送迎バスで空港へ 出国 デルタ航空 DL155 便にて日本へ 機中泊
9月8日(土)	16:35	入国 成田着 通関後解散 機中泊

航空機の遅延、または現地事情等によりホテル・日程等一部が変更される場合があります。

参加費用 699,000 円

A. 参加費用に含まれるもの

- (1) 航空運賃 行程表に記載の航空会社のエコノミークラス団体包括運賃
- (2) 乗物料金 行程表に記載された団体行動中のバス等の料金
- (3) 宿泊料金 一人部屋にお一人様宿泊とした料金。
利用ホテルはシアトル/ウェスティンホテル
- (4) 食事料金 行程表に記載された昼食4回/ディナー2回の料金
Talaris Conference Center では簡単な朝食のご用意もございます。
- (5) その他
 - 1) 行程表に記載されたセミナー及び視察に伴う通訳及びガイド料
 - 2) 団体行動中のチップ、税金並びにサービス料
 - 3) 航空会社規定範囲内の手荷物運搬料金(お一人様20kg)
 - 4) 研修費用、教科書代、通訳料

B. 参加費用に含まれないもの

- (1) 個人的性質の費用 タバコ、洗濯、電報電話、飲食費など個人的性質の諸費用、ベッドメイクチップ等、航空会社規定以上の超過手荷物料金など
- (2) 渡航手続き費用 旅券印紙代(5年用 11,000円/10年用 16,000円)
- (3) 二人部屋利用料金 設定はありませんが、ご希望の場合はお問い合わせください。
- (4) 航空機アップグレード ビジネスクラス 約400,000円追加(詳細は決まり次第ご連絡)
但し、成田～シアトル単純往復の場合にのみご利用いただける特別運賃です。
- (5) 任意旅行傷害保険 ご自身でのご加入をお願いいたします。
旅行先で病気やケガをすると高額な医療費がかかる場合があります。万一のときに備え、ご加入を強くお勧めいたします。

参加要領

- (1) 募集人員 20名(最少催行人員15名) 定員に達し次第締め切らせていただきます。
- (2) 申込方法 参加申込書を藤原事務所宛(FAX: 0465-44-4751)お送り下さい。
- (3) 申込締切 2012年5月18日(金)
- (4) 旅行代金 **お申込をいただき、研修催行が決定してから、詳細ご案内をお届けいたします。その際、請求書を同封させていただきます。**
- (5) 取消料 お申込み後、お客様の都合でお取消になる場合、当方の手続きを開始または完了している場合は次の取消料を申し受けます。

出発日の前日より起算してさかのぼって	100,000円
30日目以降3日目に当たる日まで	
出発日の前々日及び前日	参加費用の 50%
出発日当日又は無連絡不参加の場合	参加費用の 100%
旅行開始後	参加費用の 100%

- (6) お問い合わせ シンクタンク藤原事務所
〒250-0011 神奈川県小田原市栄町 2-13-12 ASUKA ビル 2F
TEL:(0465) 44-4750 FAX:(0465) 44-4751
電子メール:hasegawa@fujiwaraoffice.co.jp
担当:長谷川 孝

旅行概要

- (1) 旅行名称 未来を創るリーダーシップ研修 基礎コース
- (2) 日時 2012年9月1日(土)日本発～8日(土)日本着の8日間
(研修は9月2日(日)～5日(水)の4日間)
- (3) 研修場所 米国ワシントン州シアトル市
Talaris Conference Center (<http://www.talarisconferencecenter.com/>)
- (4) 講義内容 リーダーシップ
- (5) 講師 Patrick J. Bettin 教授
- (6) 通訳 講義には全部通訳が付きますので、英語がわからない方でも参加できます。
- (7) 参加資格 特にありません。学習意欲旺盛な方なら年齢にかかわらずどなたでもご参加いただけます。
- (8) 現地手配 ピュージェット・サウンド・コーチ・ラインズ社



パトリック・ベティン博士はリーダーシップならびにマネジメント啓発の分野で国際的に知られ、尊敬を集めているコンサルタント、研究者、教育者である。博士が中心にしているテーマは、リーダーやマネージャーの業務遂行能力を向上することによって組織の活力を生み出し、持続することです。組織心理学者としての博士の専門分野は、リーダーシップとマネジメント啓発、効率的なネットワーク、企業文化、コミットメント、小グループの団結力の創造などにわたっている。ベティン博士は現在、ワシントン大学の非常勤ポストに就いている。博士のワシントン・ビジネス・スクールにおけるエグゼクティブ・プログラムに対しては 1997-98 年「優秀講義賞」が贈られている。ウェスト・ポイント合衆国陸軍士官学校の教壇に立っていた当時から、やはり抜きん出た

講義力が評価されている。教授陣の上席メンバーとして、リーダーシップならびにマネジメント効率化プログラムの開発、コーディネート、教育、監修に重責を果たしている。博士はこれまでに、ベクテル Bechtel、PACCAR、ボーイング、エンタジーEntergy、ゼネラル・ダイナミクス、シンプソン・インベストメント、カトリック・ヘルス・イニシャティブズ、プロヴィデンス・ヘルス・システムをはじめ電気通信、航空宇宙、エンジニアリング、製造、ヘルスケア、サービス産業などのさまざまな分野で、総合的なリーダーシップ啓発プログラムを立案・施行してきた。さらにワシントン州運輸局、労働産業局、人事局など、さまざまな政府機関のためにリーダーシップ啓発プログラムを実施している。エグゼクティブ・プログラムの人事管理、合衆国政府に関するエグゼクティブ・プログラムの人事管理にも携わっている。また博士のプログラムは、日本、オーストラリア、英国、ラテン・アメリカ、中近東でも施行されている。 バッテル・プロフェッショナル・ディベロップメント・センターのディレクターとしてベティン博士は、デミング賞を受賞した日本の公益企業のために、重要な研究開発をリードしてきた。関西電力のためのこのプロジェクトは、持続的効果に貢献できる個人、ワークグループ、組織の要素を統合する包括的なリーダーシップ・モデルとして結実した。これに続く追跡調査プロジェクトは、ワークグループの業務遂行力を向上させる手段としての従業員のモチベーションと参加意識に焦点を当てている。現場のリーダー兼マネージャーとして専門家としての人生の大半を送ってきたベティン博士は、これまでに 125 名から 1,500 名の範囲にわたる組織の業務遂行力について、直接の責任を負ってきた。リーダーとしても、またリーダーシップの教育者としても、その傑出した実行能力が評価されている。博士の軍歴の中には、高名な陸軍レンジャー・スクールの優等生に贈られるウィリアム・O・ダービー賞の受賞、2度の武勲賞、さらに戦闘中の負傷者に対するパールハート勲章を2度の受章がある。1986年、博士は最年少の陸軍士官として大佐に昇進している。

学歴

Ph.D、組織心理学、ワシントン大学(1983)

M.S、社会心理学、ワシントン大学(1983)

M.S、カウンセリング教育、ロングアイランド大学(1978)

B.B.A、経営管理学、マイアミ大学(1974)

関連する主な経歴

1988年

ワシントン大学教授就任。経営管理学大学院(ビジネススクール)で教育ならびにコンサルティング活動にあたる。1997-98年の同大学院優秀講義賞を受賞。

1995年

インスティテュート・フォア・マネジメント・スタディの教授陣に迎えらる。

1994年

ベティン・アソシエイツ社社長に就任。リーダーのプロフェッショナル能力啓発ならびに組織内チームワーク改善を専門にする国際コンサルティング企業の代表者を務める。総合的リーダーシップ啓発プログラムの立案・施行の指導にあたる。現在の主なクライアントには、ベクテル Bechtel、PACCAR、プロヴィデンス・ヘルス・システム、LG & E エナジー・コーポレーション、カトリック・ヘルス・イニシャティブズ、エンタジーEntergy、エッソ、シンプソン・インベストメント、ワシントン州政府運輸局、人事局、労働産業局などがある。

1991-1994年

バッテル・プロフェッショナル・ディベロップメント・センター(バッテル・メモリアル・インスティテュート)のディレクター。バッテルの総合的リーダーシップ啓発プログラムの開発、コーディネート、指導の責任者を務める。これらのプログラム

は、活力ある組織チームの創造と維持に不可欠なリーダーシップ能力、方法を主眼にしている。プログラムは国内・海外の主要な研究に基づいてトータルな品質管理環境での持続的な改善とリーダーシップを重視している。最近の活動には、航空宇宙・製造業の主要企業(ボーイング、ゼネラル・ダイナミクス、PACCAR)、電気通信企業(ユナイテッド・テレフォン・オブ・オハイオ・アンド・インディアナ)、エンジニアリングとデザイン企業(ベクテル、CH2Mヒル)、バイオテクノロジー企業(アキュソン、アボット・ラブズ、イミュネックス、ヴァレラブ)、政府機関(連邦通貨監査局、ワシントン州労働産業局、ワシントン州キャリア・エグゼクティブ・プログラム)を対象にした啓発プログラムがある。これらのプログラムは日本の三菱、関西電力、東京電力など、海外にも展開している。

1987-1991年

バトラー・ヒューマン・アフェア研究センター上級科学研究員。この大規模で国際的な非営利の研究機関の研究スタッフの幹部として、リーダーシップならびにマネジメント効果の分野での研究プログラムの立案、運営、指導の責任者を務める。これらのプログラムは、チームワーク、リーダーシップの質、集団過程、組織問題に重点を置いている。合衆国、ヨーロッパ、日本の組織のために、研究成果に基づいたリーダーシップ・モデルを開発している。

1983-1987年

合衆国陸軍士官学校(ウェスト・ポイント)行動科学リーダーシップ学科助教授。上級士官候補生を対象にしたリーダーシップならびにマネジメントの選択科目の立案、コーディネート、教育、監修にあたる。これらのコースは、組織研究の学際的な性質に重きを置き、組織の業務遂行能力の創出と拡大における管理者とリーダーの役割を重視している。その中で5名の教職員を指導。陸軍リーダーシップ・センターをコンサルティング。この分野の専門家として、全米にわたる陸軍教育制度におけるリーダーシップ研修の統合的な共通カリキュラムの開発責任者を引き受ける。このプロジェクトはリーダーシップの研修・啓発を3つの具体的なフェーズで説明している。陸軍士官候補生の訓練向けに、ベーシックなリーダーシップのスキルにおける能力の判定や研修プランを作成。また組織という環境でのリーダーシップ教育に関連した教授陣の拡充計画を指導。ヘルスケア管理者のためのエグゼクティブ・リーダーシップ啓発。病院・歯科クリニック管理者の業務遂行能力の向上を目的にした3日間ワークショップ・セミナー・シリーズを立案、コーディネート、指導。このワークショップは3年間にわたって実施されたもので、ヘルスケア組織の設立・維持のために必要なリーダーシップとマネジメントのスキル、重要性を中心に据えている。

1981-1983年

ワシントン大学心理学部での共同研究者。

1979-1981年

ノース・カロライナ州フォート・ブラッグ第82空挺師団作戦本部勤務士官。

著作・論文

P・J・ベティン、P・S・ハント、S・E・マーフィー、J・L・マコーレー「活力あるリーダーシップのモデル」、1993年、ニュージャージー州ウェスト・オレンジ、リーダーシップ・ライブラリー・オブ・アメリカ社刊、K・E・クラーク、M・B・クラーク編「インパクト・オブ・リーダーシップ」所載

P・J・ベティン、J・K・ケネディ「リーダーシップ経験とリーダー・パフォーマンス:ようやく得られた経験的な裏付け」、1990年、リーダーシップ・クオリティ1(4)219-228所載

P・J・ベティン他「リーダーシップ啓発によるメンテナンス強化」全2巻、1989年、テクニカル・リポートBHARC-700/89/022、シアトル、バトラー人間問題研究センター。

P・J・ベティン、F・E・フィドラー「職業に適した経験、在職期間、リーダーシップ・パフォーマンス」、1987年、F・E・フィドラー、J・E・ガルシア「活力あるリーダーシップへの新しいアプローチ:認知力と組織の業務遂行能力」所載

申 込 書

未来を創るリーダーシップ研修 基礎コース

期 間：2012年9月1日(土)～8日(土)

ご記入日： 年 月 日

フリガナ				性別	男・女	婚姻	既婚・未婚
名 前				生年 月日	明・大・昭・平(西暦19 年) 年 月 日(満 歳)		
ローマ字	パスポートと同じ綴りでご記入ください。 Family Name (姓) First Name (名) MR. / MS.						
フリガナ							
現住所	〒 _____						
電話	() -	FAX	() -	携帯			
本籍地							
所属先・職業	会社名	英文					
	団体名	日本語					
	学校名	日本語			役職名		
	所在地	住所	〒 _____				
連絡先	電話	() -	FAX	() -	所属先への連絡は 可・不可		
E-mail	_____ @ _____						
旅行中の 国内連絡先	名前				電話	() -	
	住所	〒 _____			続柄		
旅券 (パスポート) 注	現在有効な旅券をお持ちですか		持っている		持っていない		
	お持ちの方は番号				有効期限	年 月 日	
	お持ちでない方		現在申請中(受領予定日 年 月 日) これから申請する(取得後、発行日と番号をご連絡ください)				
ビジネスクラスのご希望 全席禁煙席です。				お問い合わせ先： シンクタンク藤原事務所 〒250-0011 神奈川県小田原市栄町 2-13-12 ASUKA ビル 2F TEL:(0465)44-4750 FAX:(0465)44-4751 担当：長谷川 孝 hasegawa@fujiwaraoffice.co.jp			
希望しない 希望する(窓側・通路側)							
請求書の宛先							
ご本人様 その他()							
所属先 無印の場合はご本人様宛で発行させていただきます							
こちらからお電話させていただく場合のご連絡可能先							
ご自宅 所属先 携帯 (ご連絡しても良い先にすべてチェックをお願いいたします)							
その他ご希望等							

切り取り

注 旅券の有効期限は、帰国する日より1ヶ月以上の残存があるほうが望ましいです

FAX 送信先: 0465-44-4751